



ХӨДӨЛМӨР,
НИЙГМИЙН ХАМГААЛЛЫН ЯАМ



JAPAN INTERNATIONAL
COOPERATION AGENCY

ウランバートル市における
障害者の社会参加促進
プロジェクト(DPUB)
ニュースレター第19号

JICA DPUBのFACEBOOKページに
「いいね」をお願いします。

お陰様で、今ではページの「いいね」が
3209件に達し、より多くの方に情報を発信
できるようになりました。これからも、楽し
んでいただけるような投稿を目指して頑張り
ます。引き続き、宜しくお願い致します。



DPUB連絡先

Office:

Government Building – 2, United Na-
tion’s Street – 5, Ministry of Labor and
Social Protection
Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook:

<https://www.facebook.com/jicadpub>

Website:

<https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com

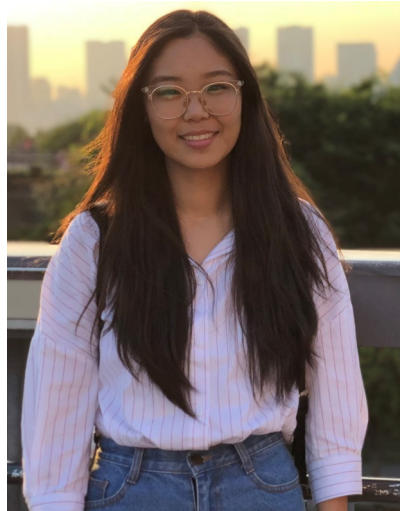
教育分野で障害の啓発活動 (2018.09.13)



参加者と障害について熱心に話し合うグループファシリテーター

9月6日、10日の2日間、教育関係者向けに障害平等研修 (DET) を行いました。参加したのはウランバートル市の教育局の指導主事やナライフ区の109番学校の先生達計35名。ナライフでは停電にも関わらず、先生達が最後まで熱心に参加していました。ウランバートル市では、日本の協力で、学校の建設や改修を進めています。新しい学校には、スロープや誘導ブロック、見やすい案内板を設置したりと、すべての子ども達に優しい環境をつくります。建物がアクセシブルでも先生達の意識が変わらなければ障害のある子どもたちが楽しく学ぶことはできないという問題意識から、DETを実施することになりました。先生達は、障害当事者であるファシリテーターと対話をしながら、「障害とは？」を考え、これからの行動について熱心に議論をしていました。今後は、バヤンズルフ区、ハンオール区の学校でも実施を予定しています。

インターン自己紹介 (2018.09.27)



ツェツェンゴーさん

みなさんこんにちは。私は9月25日からJICA技術協力プロジェクト「ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト」で3週間インターンさせていただいております。モンゴル国立大学日本語学科4年生のエンヘジャルガル・ツェツェンゴーと申します。今回のインターン志望動機は去年の2017年の9月から筑波大学で1年間留学していた時に就学前教育機関について調べ論文を書きました。主にモンゴルの就学前教育や就学前教育機関について研究しましたが、その中で障害者を受け入れている就学前教育機関がとても少なく、通いたくても通えない子供がたくさんいることが分かりました。子供が就学前教育機関に預けられないために働けない親もたくさんいることが分かりました。

3週間という短い間ではありますが、本プロジェクトで学べることはたくさん学び、もっと理解を深められたらと思っています。またプロジェクトのみなさまがとても優しく教えてくださるので精一杯頑張りたいと思います。まだまだ勉強不足なところがありますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

国連の仕事とアジア太平洋障害者の10年

国連ESCAPの一つの役割は、加盟国の障害情報を収集し発信することです。2001年当時、すでにウェブサイトが利用されてました。しかし障害者が利用しやすいウェブサイトではなかったのです。例えば、音声呼び上げソフトを使っても入手できない情報があったり、画像や写真に代替テキストがなかったり、またコントラストが悪く文字が見えづらかったり、今で言うウェブアクセシビリティが完備されてなかったのです。そこで私の最初の仕事は、ESCAPのウェブサイトをアクセシブルにすることでした。ただ全体をアクセシブルにするのは当時難しく、まずは社会開発部の障害情報ウェブサイトからアクセ



千葉チーフアドバイザー

シブルにしました。情報アクセシビリティの向上は、「国連アジア太平洋障害者の10年（1993年～2002年）」の行動目標に含まれていました。この10年は、アジア太平洋地域で各国が障害者の社会参加を促進するために、国連ESCAPが決議した宣言で、各国政府は行動目標の実現に取り組んでいました。しかし決議したESCAPのウェブサイトがアクセシブルでなかったら、各国政府に示しが付きません。その意味で、障害分野の経験は少なくとも、情報技術という面で貢献できたことは、私にとっては喜びでした。必ずしも国連や開発、そして障害の専門家でなくても、自分の知識や経験が役立つことを知りました。ただ、その後は障害分野の専門知識が必要になったのです。（つづく・・・）

DAISY図書の普及に関して（2018.08.16）

みなさん、Daisyをご存知でしょうか？Digital Accessible Information Systemの略で、アクセシブルな情報システムのことを言います。紙の印刷物を読むことが困難な人にも利用可能な「聞いて読む録音図書」などがあります。DPUBを通じて日本センターに数枚のDaisy図書を寄贈してあります。先日、ザヤさんと一緒に日本センターの図書館を訪れ、利用環境について確認をしました。今後、他の人にも利用してもらえるように、Daisyの紹介のための小規模なガイダンスを計画中です。



東田専門家がザヤさんと一緒に日本センターを訪問した

技術向上のための再研修～DETフォローアップ研修～（2018.09.14）

9月7日、障害平等研修（DET）ファシリテーター達が日本センターに集合。スキルアップのための研修に参加しました。今回のメインテーマは、「アイスブレイク手法」と「アクセス改善のための建築基準」。それぞれファシリテーターのゲレルさんとルハムジャブさんが講師を務めました。二人はこの分野の専門家。ファシリテーターが得意な内容を担当して学び合う機会になりました。アイスブレイクの手法では、知り合い同士の場合と初対面の場合など、状況に応じて応用できるよう実践。建築基準の講義では、ドアの幅やスロープの角度、誘導ブロックのサイズなど、詳細な基準があることを学びました。「基準があっても守られていない・・・」課題を共有し、意識のバリアに気づきました。研修を通じて、DETを活用した啓発が必要と再認識。建築分野はじめ多様な分野でDETを進めていきたい、ファシリテーター達は意を新たにしました。



スキルアップを目指すファシリテーター